

# JR折尾駅舎 記録保存調査



本調査は、多くの人々に親しまれてきた折尾駅舎の歴史や姿を後世に伝えるとともに、新折尾駅舎へのシンボリックな部材の活用や歴史的な外観の再現に活かすため、駅舎の解体工事にあわせて、JR九州（九州旅客鉄道株式会社）と連携を図りながら行いました。

調査にあたっては、建物細部の寸法調査や構造材の状況調査などを行い、また同時に、史料等から折尾駅の履歴に関する調査を行いました。そして、これらの調査をもとに、竣工当時の駅舎の復元考察を行いました。

この調査について広く知って頂くため、調査の概要、復元考察に基づき作成した復元図などを取りまとめました。

## 折尾駅舎の写真

「折尾駅舎の古い写真募集」にあたっては、多くの写真をご提供頂き、ありがとうございました。

昭和9年



『鉄道記念寫真帖』より

昭和30年代 後半



木村栄久氏 提供



昭和44年 香山義恵氏 提供

昭和40年代 後半



藤崎吉弘氏 提供

昭和50年代 後半



西野浩平氏 提供



昭和51年 香山義恵氏 提供



平成25年 『折尾駅舎見学会』



平成24年 『ありがとう折尾駅舎』イベント

# JR折尾駅舎 記録保存調査

## 〔調査期間〕

平成24年11月12日 ～ 平成25年3月31日

## 〔建物概要〕

所在位置	北九州市八幡西区堀川町1番1号
竣工	大正5年
設計	不明
施工	不明
構造階数	木造2階建て
延床面積	673.63㎡

## 〔専門家〕

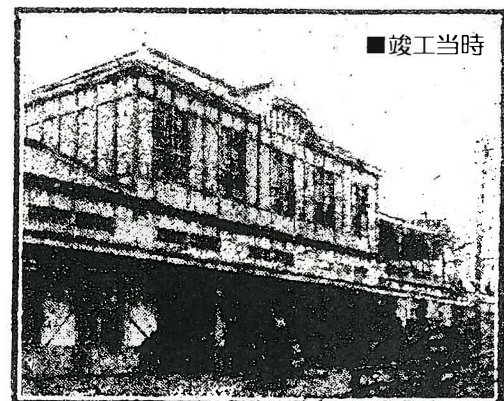
九州大学名誉教授	片野 博氏	(建築分野)【調査・監修】
北九州市立大学准教授	赤川 貴雄氏	(建築デザイン分野)【調査】
九州国際大学 社会文化研究所客員研究員	市原 猛志氏	(産業技術史分野)【調査・監修】

## 調査結果の概要

通常、駅舎はサービスの充実を図るため、機能の変更や追加などの改造が行われています。折尾駅舎も例外でなく、増築や間仕切り壁の位置の変更など、大きな改造が行われていました。特に1階部分においては、竣工当時の壁がほとんど残っておらず、目視だけでは、旧状を把握することは困難な状態でした。

一方、外観に関しては、外壁材や装飾等の変更、窓のアルミサッシ化など、各部材は当初のものとは異なるものの、2階中央部の屋根形状や窓の位置においては、竣工当時の姿を残していました。

また、2階北側部分は現場の痕跡と竣工当時の写真から、かつてホームの一部であったと考えられます。



(大正5年11月7日発行 福岡日日新聞より)

# 主な調査結果

## 《仕上材撤去状況》



[1階]



[2階中央部]



[2階床部]

1階部分の壁の開口部（出入口や窓など）は、その位置、有無を含めて大きく変更されており、この開口部の変更を構造的に処理するため、各所に補強の鉄骨が挿入されていました。

また、2階中央部の小部屋は、後設の簡易な間仕切り壁で区画されており、この壁の撤去により、竣工当時の状態を把握することができました。なお、2階中央部の部屋は竣工当時、1室構成でした。その他、構造部材の一部には、白蟻被害等による腐朽が見られました。

## 《待合室円形ベンチ》

折尾駅舎を特徴付ける待合室の化粧柱には、竣工当時、2本ともに円形ベンチが設置されていました。調査時には、その1つが残されており、各部材を丁寧に取り外したところ、板張り部分を含め、約100ピースもの部材から構成されていました。



## 《鹿児島本線連絡用階段》

筑豊本線1番ホームに設置された鹿児島本線連絡用階段下部の鋼材には、「◎SEITETSUSHO YAWATA ヤワタ」の刻印が記されており、官営八幡製鐵所によって生産された鋼材が使用されていたことが確認できました。

